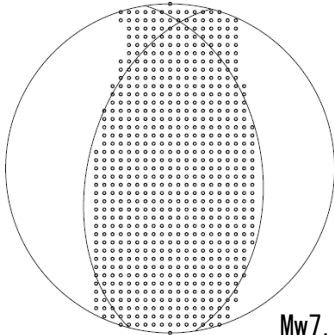


8月31日 フィリピン諸島の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

W-phase による解

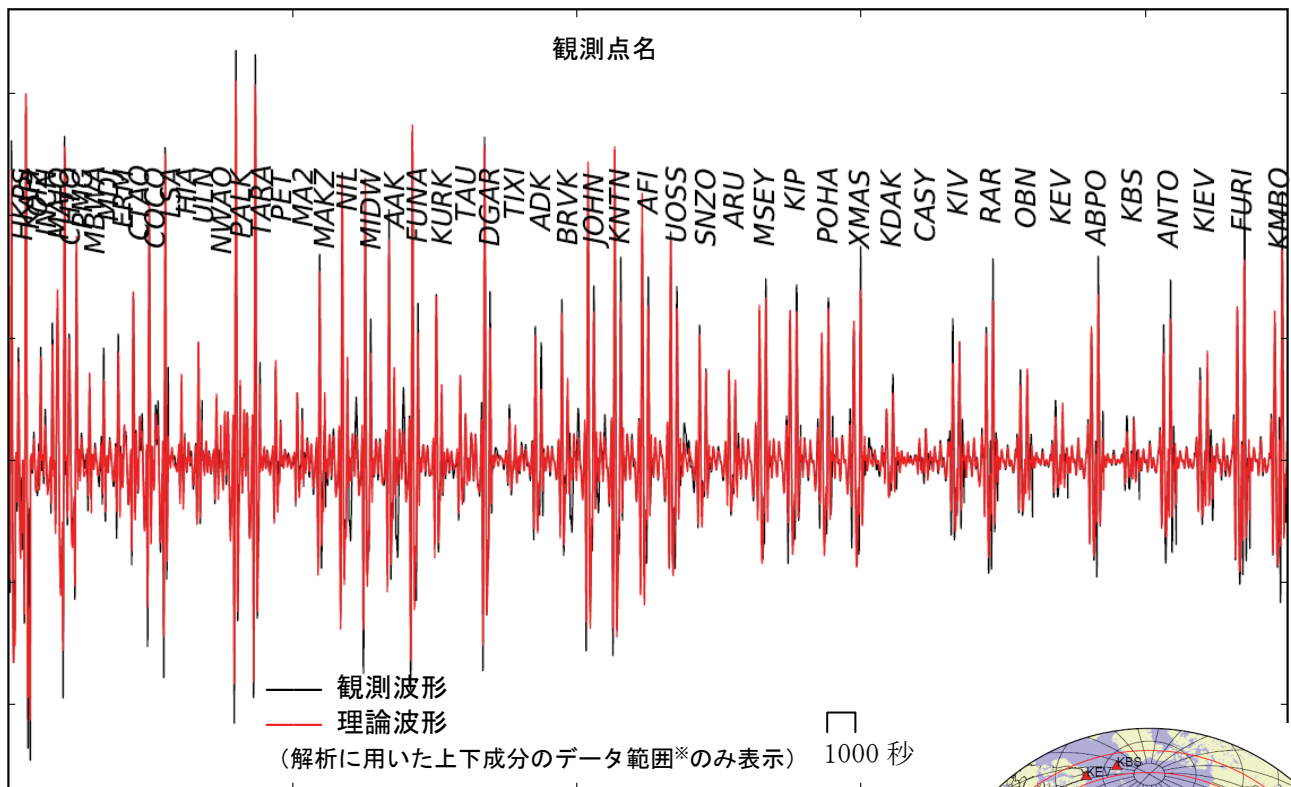


Mw7.59

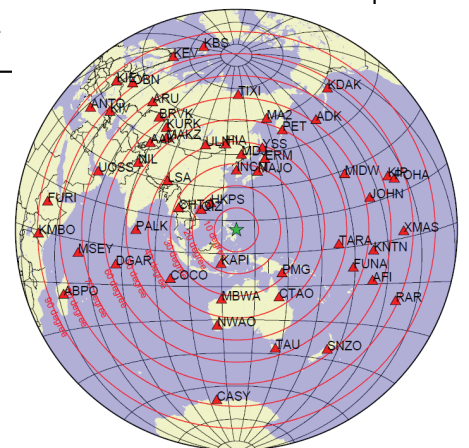
2012年8月31日21時47分(日本時間)にフィリピン諸島で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.6であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源はN10.8°, E126.9°, 深さ51kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離10°~90°までの53観測点の上下成分、9観測点の東西成分、8観測点の南北成分を用い、100~500秒のフィルターを使用した。

注) W-phase とはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。



※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。



解析に使用した観測点配置

(W-phase に関する参考文献)
Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用した。記して感謝する。

気象庁作成